第1回　数字とお金の管理

～損益と収支～

はじめまして。アセントリード株式会社の大村です。
中小零細企業の資金繰り改善、成長支援を行っています。
会社の活動には営業、マーケティングなど様々ありますが、一言で言えば財務面に重点を置いて支援を進めています。
今回は、私と「資金繰り」との関わりについてお話ししたいと思います。

もう20年以上前のことになりますが、私の父はソフトウェアの開発会社を経営していました。バブルが弾けた後から売上が落ち込み、最終的に会社は倒産してしまったのですが、父はそこで「もう一つだけ作ってみたいものがある」と言っていました。
それからなけなしのお金をはたいて完成させたのが、資金繰り管理ソフトでした。

当時、私はまだ大学生だったのですが、マニュアル作りを手伝ったのです。Windowsは3.1、パソコンはNECというとっても懐かしい時代です。
パソコンの性能も今と比べるとかなり劣ります。ほぼ完成に近づいた頃にはデータが重たくなってパソコンの動きが止まるほどでした。
なんとかマニュアルも完成し、商品として売り出したときの嬉しさ、販売店から売れたという報告を聞いたときの嬉しさは、今でも忘れられません。

このように、かなり珍しいきっかけで「資金繰り」というものを知ることになりました。
「どんな会社でも業績の管理をしているけども、社長はそれとは別に資金繰り表というものを手書きで作ってお金の管理をしている。それをパソコンで簡単にできるようにしたい。」
というのがこのソフトを作ったきっかけでした。

この話を聞いた当時は頭の中が？？？でしたが、今はよく分かります。
社長はせっかく自分の会社を経営しているのだからいい思いをしたいんです。お金を稼ぎたいんです。
なのに気付けばお金の心配ばかり・・・。
業績が良くてもお金が減っていくこともあります。
例えば、商品を売ったのに代金が回収できない、売れると思ってたくさん仕入れたのに在庫が山積みになってしまった。高額な投資や借入の返済は、お金は減っていきますが、経費ではないので利益は減りません。
だからこそ、業績の管理だけでなく、お金の管理（資金管理）が必要になります。
次回は、どのようにお金の管理をしていくのかをお話しします。

今月号執筆ボランティアの先生ご紹介

アセントリード株式会社
代表取締役 大村 剛史 様

今月号からは、アセントリード株式会社 代表取締役 大村 剛史様にご執筆頂きます。
大村様は大手システム機器販売会社の営業を経て、2008年に事業再生コンサルティング会社に入社されると、コンサルタントとして銀行・税務署等との交渉を次々とまとめられ、計500件以上の支援を行われました。
その後、2015年にアセントリード株式会社 代表取締役に就任され、顧問契約後1年間で黒字化率が50%、また、2年間では71%、3年以上では82%を達成されています。
そして、中小企業の成長には「未来思考」と「数字」が鍵になるというお考えのもと、事業再生のみならず拡大成長を遂げる中小企業に寄り添いながら、独自に開発した管理ツールを駆使して現在も多くの企業の支援を続けていらっしゃいます。
2019年8月には「資金繰り不安を解消し、会社を成長させ、社長の夢を叶えるために必要な3つのポイント」をわかりやすく解説した【著書「中小企業経営者のための『数字力』養成講座」（幻冬舎）】も出版されています。

URL：https://www.ascentlead.co.jp/　　E-mail：info@ascentlead.co.jp
メルマガ登録：http://u0u1.net/wyjG